



## 社長の後継者にしてはならない人

社長の後継者にしてはならない人にはいくつかある。

- ①戦わない人に経営を預けることは会社の「死」を意味する。  
会社は遊びに行くところではない。仕事をしに行くところである。仕事は戦いである。文字通り「戦場」である。戦いのできない人に経営を任せるべきではない。こうした社長はいつも困難な問題から逃げてしまう。
- ②人を尊敬できない人を後継者にすべきではない。  
人を尊敬できない人は他から学ぶ姿勢が無い。行動は自己中心で、こんな人を社長にすると他の意見に耳を貸さず、一人よがりの経営をして会社をおかしくしてしまう。
- ③祖先や親を否定する人を社長にすると忠実だった社員までもが逃げていく。  
これは質が悪い。親の欠点をあげて悪く言う。過去の日本人すべてを悪者だと思っている。誰にも感謝しない。自分一人で育った気である。態度は横柄で、精神は利己的で礼儀知らず。こうした人が社長になれば、それまで忠実だった社員さえ会社から逃げていってしまう。
- ④足元に目がいけない人は土台からくずれてしまう。  
苦勞知らずのインテリ社長はあたかも理論と数字のみで経営を行なおうとしているように見える。パソコンの中に会社がすっぽり入っているように・・・
- ⑤平等意識の強い人が社長になると規律を軽んじ、上下のけじめを疎かにし、仕事ができる社員とできない社員を平等に扱い、わがまま勝手を言う烏合の衆の集団に会社を変えてしまう。

日本の企業の98%はオーナー会社、すなわちオーナーマンズシップの会社であるが、どこも後継者と組織の問題を抱えている。経営権の継承をうまくやることは社長に課せられた最大の命題であると思われる。

